（別紙４）

公表　保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名	リアム東住吉

公表日　2025年　4月　1日

利用児童数 10　　回収数 3

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1			2		・今後検討が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	3					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				3		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2			1		・今後検討が必要。 ・定期的な勉強会を開催し、スタッフの障がい特性の理解を促していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				3		・今後実施を検討する。 ・一部実施中
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2			1		・今後、SNS等の情報発信を検討していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2			1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	3					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	3					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	29	事業所の支援に満足していますか。	3					

（別紙４）

公表　保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名	リアム東住吉

公表日　2025年　4月　1日

利用児童数 10　　回収数 3

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	3					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		1		2		・今後実施を検討する。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				3		・今後実施を検討する。 ・一部実施中
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	1				・実施内容等情報発信を検討していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	1				・実施内容等情報発信を検討していく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	3					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	3					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	29	事業所の支援に満足していますか。	3					

（別紙５）

公表　児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	リアム東住吉

公表日　2025年　4月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2		・物の整理整頓による収納の改善によりﾌﾛｱｰｽﾍﾟｰｽの拡大、改善。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3		・職員一人一人の作業効率の改善。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	5			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		・毎年ご意見に対して検討、実施を行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		・今後検討が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	28	（28～30は、センターのみ回答）				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	5			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	5			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5			
	31	（31は、事業所のみ回答）				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	5			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3		・今後実施を検討する。
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2	3		・送迎時に保護者様との連携強化と相談に積極的に対応していく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		・今後実施を検討する。 ・一部実施中
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			

（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	リアム東住吉			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025/2/20	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10名	（回答者数）	3名
○従業者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025/2/20	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者との密な連携・安心感のある関係づくり 日々の送迎時や連絡帳を通じてこまめに子どもの様子を伝えており、家庭との信頼関係が築けている。 保護者相談や勉強会の実施により、家庭での支援のヒントも提供している。	・視覚支援や環境設定による安心感の提供 子どもが見通しを持てるよう、スケジュール表や絵カードを活用した視覚的な案内を工夫している。 活動ごとに分かりやすくゾーンを分けた環境構成を行い、「今、何をするのか」がわかる空間作りを意識。	・「遊び」の質を高める専門的アプローチの導入 取組例：感覚統合・構成あそび・ソーシャルスキル遊びなど、発達を促す理論に基づいた遊びの種類を職員間で学び、計画的に導入。 充実の目的：自由遊びも「目的ある遊び」へと昇華し、個々の発達課題に合った支援ができるようにする。
2	・経験豊富で多様な専門職による支援体制 保育士、理学療法士など、多職種連携による支援を行っており、幅広いニーズに対応可能。 専門職が連携し、包括的に子どもの発達を支える支援体制を整えている。	・遊びを通じた自然な発達支援の工夫 感覚統合、言語発達、対人スキルなどを「遊びの中で楽しみながら学ぶ」ことを重視。 工作やごっこ遊び、運動遊びなどを取り入れ、活動の中に発達課題をさりげなく組み込んでいる。	・子どもの「自己表現力」や「感情理解力」を育てる支援の導入 取組例：絵日記・気持ちカード・選択絵本などを通じて、自分の気持ちを言語化・視覚化できる時間を意識的に設ける。 充実の目的：自己表現が苦手な子どもにも安心して思いを伝えられる土台をつくり、人との関係づくりの一歩とする。
3	・子ども一人ひとりに合わせた丁寧な個別支援 発達段階や特性を丁寧に把握し、無理のない支援目標とプログラムを組んでいる。 小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を育てる支援に力を入れている。	・家庭と連携した支援の継続性への配慮 保護者に支援内容や子どもの様子を丁寧に伝えることで、家庭でも実践しやすい関わり方を共有。 保護者からの声を定期的にフィードバックとして受け取り、支援内容に反映させている。	・多様なニーズに応じた「個別対応の柔軟性」の強化 取組例：スケジュール変更が必要な子への対応マニュアルや、特定の課題に苦手意識がある子への段階的支援方法を整備。　充実の目的：支援の一律化ではなく、「柔軟に変えられる支援」を事業所全体で共有し、実行する力を高める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員間での情報共有の仕組みが明確でない 支援に関する情報が口頭ベースで伝達されることが多く、細かな支援の意図や観察結果が十分に共有されていない場面がある。 【課題】：支援の一貫性や子どもへの対応の統一感に影響を与える可能性がある。	・業務の多忙さと人員配置のバランス 要因：限られた職員数で支援・記録・保護者対応・会議・事務作業等をこなす必要があるため、支援の振り返りや質の向上のための時間が確保しにくい。 結果として、支援内容がルーティン化しやすくなる、または一部の職員に負担が集中するという課題に繋がっている。	・職員間の情報共有体制の強化 取組例：日々の支援記録を共通フォーマット化し、短時間でも要点が伝わる仕組みを整える。 工夫点：タブレットやアプリなどICTを活用して、支援中でも記録・確認しやすくする。
2	・新しい支援方法や知識のアップデートが不十分 業務に追われ、外部研修への参加や支援方法の見直しに時間を割くことが難しい状況。 【課題】：支援の質の維持・向上や、多様なニーズへの柔軟な対応に限界が生じる恐れがある。	・職員の経験や専門性にばらつきがある 要因：発達支援に関する専門的な研修を十分に受ける機会が職員によって異なり、知識や支援スキルの差が出てしまう。 経験の浅い職員が安心して関われる仕組み（OJTやマニュアル等）が整っていないと、子どもへの支援の質に影響が出る。	・支援の質向上に向けた研修・学びの習慣化 取組例：月1回のミニ勉強会を実施し、事例共有や最新の発達支援知識を学ぶ時間を確保。 工夫点：テーマごとに担当を決めて交代で発表するなど、職員の主体性も育てる形式にする。
3	・集団活動時の支援の難しさ 子どもの特性によって、集団活動中に支援が手薄になるケースがある。 【課題】：子ども同士の関わりや社会性を育てる機会を活かしきれていない。	・事業所内での情報共有の仕組みが属人的になっている 要因：ベテラン職員の経験や感覚に依存した支援が多く、仕組みとしてのマニュアルや記録の活用が追いついていない。 その結果、職員間での支援方法の認識の違いが生じ、子どもへの対応に一貫性を欠くケースが見られる。	・新人・若手職員への支援体制の整備 取組例：OJT担当者を明確にし、「見て学ぶ」から「一緒に考えて学ぶ」への支援体制に移行。 工夫点：支援ごとのチェックリストやマニュアルを整備し、安心して実践に臨める環境をつくる。

（別紙５）

公表　放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	リアム東住吉

公表日　2025年　4月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	3			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			・毎年ご意見に対して検討、実施を行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	3			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	3			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3			・今後実施を検討する。
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	3			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		3		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			・送迎時に保護者様との連携強化と相談に積極的に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		・今後実施を検討する。 ・一部実施中
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		対象となるご利用者様がいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3			

（別紙３）

公表　放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リアム東住吉			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025/2/20
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	3
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025/2/20
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの主体性を尊重した支援の実施 子ども一人ひとりの興味や関心に寄り添い、選択の自由を大切にしたプログラム構成。 自己決定を促す関わりにより、自信と自立心を育てる支援体制。	・個別支援計画の質を高めるための定期的なケース会議の実施 支援の見直しや進捗の確認を目的に、スタッフ間で定期的にケース会議を行っている。 多角的な視点から子どもの成長や課題を共有し、支援内容のブラッシュアップを図っている。	・子どもの自己表現力を育むプログラムの拡充 自分の気持ちや考えを安心して表現できるよう、絵画・音楽・ダンスなどの表現活動を積極的に取り入れる予定。 活動後の「ふりかえりタイム」を導入し、自分の感じたことを言葉にする機会を増やしていく。
2	・保護者との連携体制が充実 定期的な面談や、連絡帳等を通じて密な情報共有を行っている。 保護者からの声を事業所運営に反映し、安心して預けられる環境づくりに努めている。	・子ども同士の関わりを育むための「協働活動」の導入 子どもたちがチームで協力して取り組むプログラムを意識的に組み込んでいる。 協調性やコミュニケーション力を自然に育てる機会として、段階的に関わり方を支援している。	・スタッフのスキルアップ研修の充実 発達障害や支援技法に関する外部研修への参加をさらに推進し、最新の知見を取り入れた支援を目指す。 定期的な事例検討会を通じて、支援の質の向上とスタッフ間の共通理解を深めていく。
3	・多職種連携による質の高い支援 児童指導員、保育士、理学療法士など、専門性の高いスタッフによる連携支援。 個別支援計画に基づき、個々の発達課題に対して多角的なアプローチを実施。	・保護者支援として交流の場、「子ども食堂」を提供 保護者が孤立しないようサポートし、家庭との連携を深めることで一貫した支援を目指している。 月に数度、保護者同士が情報交換できる場や、職員との相談の場を設けている。	・中高生へのステップアップ支援の導入 進学や就労に向けたスキル育成（公共交通機関の利用、金銭管理、職場見学等）を段階的に取り入れていく。 年齢や発達段階に応じた「ライフスキル支援」の強化。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援記録や業務報告のICT化が未整備 手書きや個別ファイルでの管理が中心となっており、情報共有や蓄積に時間がかかっている。 今後はICTの導入を進め、業務効率化と職員間の情報共有体制の強化を図る必要がある。	・スタッフの人員確保や定着の難しさ 【要因】福祉業界全体における人材不足に加え、専門性のある人材の確保が難しい現状がある。 【補足】職場環境や待遇面、キャリア形成の不透明さが定着率の低さにつながっている可能性もある。	・職員間の情報共有の強化と支援の統一 取組例：週1回のミニミーティングや日報共有を通じて、支援方針や子どもの様子を日々確認し合う。 工夫：個別支援計画に基づく「対応マニュアル」や「ケース別対応チャート」を作成し、支援のブレを防ぐ。
2	・中高生向けプログラムの充実が課題 小学生向けの活動に偏っており、年齢が上がるにつれて活動の難易度や内容に物足りなさを感じる子どももいる。 中高生のニーズに応じたキャリア支援や社会体験の機会を増やす必要がある。	・支援の質のばらつき 【要因】スタッフ間の経験値や支援スキルの差があり、個別対応の質にばらつきが生じやすい。 【補足】共通理解を深めるための研修やマニュアル整備が十分ではない場合、支援方針のズレも課題になりうる。	・職員研修の体系化とOJT制度の整備 取組例：外部研修だけでなく、事業所内での「月1回の内部勉強会」を継続的に開催。 工夫：新任職員向けに「支援の心得」「コミュニケーション技法」などの初期研修プログラムを準備し、定着支援を強化。
3	・スタッフの人員配置に余裕がなく、個別対応が難しい時がある 特に送迎時間帯や繁忙期において、職員の配置に余裕がなく、丁寧な個別支援が行いづらい状況がある。 安定した人材確保とシフト体制の見直しが求められる。	・年齢・発達段階に応じたプログラムの不足 【要因】限られたスタッフや時間、物理的スペースの制限の中で、すべての年齢・特性に対応するプログラムを準備することが困難。 【補足】特に中高生向け支援へのノウハウや経験の蓄積が少ないことも要因のひとつと考えられる。	・中高生向けプログラムの開発と実施 取組例：ソーシャルスキルトレーニング、ライフスキル（買い物、公共交通機関の使い方）などを取り入れたプログラムの実施。 工夫：子ども本人の希望や関心をヒアリングし、参加意欲を引き出す「選べる活動メニュー」を導入。